



形成期を過ごし、現在は田畑新町の1945年生まれの男性も、筆者(1973年生まれ、女性、18歳まで富山市田畑新町)も、カラしか用いず、サカイ・ケニなどの方言形式は理解語でしかない。今回の調査の富山市方言の話者も、カラを「共通語的」と意識しながら、調査中の自発的な発話ではカラを頻用していた。

富山市の調査では、 $\alpha$ 類の形式が多様なことから、1-1の項目で可能な形式をなるべく多く得た後は、話者自身が使用頻度が多いと内省するサカイ(あるいはサカイニ)の可否の確認を優先した。 $\beta$ 類についても回答として出現しやすいガデとモンデの確認を優先した。ガンデはガデの代替形として稀に用いられるものであることから、以下では触れない。高岡市の結果については、富山市の報告のなかで補足情報として簡単に触れる。

### (3) 文字化について

方言文例には、表音的カタカナ表記を用いる。調査地点の音素体系は共通語と基本的に同じである。音韻・音声上の特徴とその表記を以下にまとめておく。

- ・いわゆるガ行鼻濁音を持つが、破裂音と区別せず「ガ」「ギ」…と表記する。
- ・「シ」「ス」「ジ」「ズ」が中舌化した音声が聞かれたが、表記には反映しない(音韻上は区別される。「チ」「ツ」も中舌化する可能性があるが今回は得られなかった)。
- ・文末の「？」は上昇音調を表す。
- ・また、句(文節)末が長音化し、ピッチが変動する音調(いわゆる「ゆすり音調」)が聞かれるが、その長音を忠実に表記に反映すると煩雑になるため、省略した。
- ・「×」を付した文・形式は、話者がその文(その形式を含む文)が不自然と判断したもの、「？」を付した文・形式は話者がその文(その形式を含む文)の判断に迷ったり、調査時期によって判断がゆれたものである。

また、文単位での発話を求めると、同じ共通語文に対し、原因・理由表現以外の形式にも若干の違いが生じることがあった。そこで、原因・理由表現の選択に影響を及ぼさないと判断される部分の異同を、次のように示すことがある。

{X/Y/…} 形式XまたはY(または…)が用いられる。(X, Y, …にあたる位置にゼロ形式を表す記号「 $\phi$ 」を用いることがある。)

(X) 形式Xを任意に挿入可能。

## 1 「から」と「ので」の用法

### 1-1 事態の原因(接続調査を兼ねる)

事態の原因を表す場合は、 $\alpha$ (サカイ等)・ $\beta$ (ガデ・モンデ・モンダサカイ等)のどの形式も用いることができる。ただし、1-1-4の「～ナ・ダ+モンダサカイ」は、話者が「長くて言いにくい」としたので「？」を付した。同じ「モン断 $\alpha$ 」形式でも「～ナ・ダ+モンダデ」は可とされること、また、他の項目でも「モンダサカイ」は自発的には現れにくいことから、話者の内省どおり、述語形式の長さゆえに「～ナ・ダ+モンダサカイ」が避けられやすいのだと思われる。なお、どの形式も、活用語の終止連体形に接続する。名詞・形容動詞述語の場合、ガデは連体形ナに付き、モンデと「モン断 $\alpha$ 」は、終止形ダにも連体形ナにも付く。モンデと「モン断 $\alpha$ 」が終止形ダにも接続することは、その構成要素モンが名詞的性格を失っていることを示す。

1-1-1 マイニチ アメ {ガ/ヤ/ $\phi$ } フル {サカイ/サカイニ/ノッテ/デ/ガデ/モンデ/モンダサカイ} センダクモンナ カワカン {ナ/チャ}。

1-1-2 (サイキン マイニチ) アメ {ダサカイ/ダノッテ/ダデ/ダカラ/ナガデ/ナモンデ

／ダモンデ／ナモンダサカイニ／ダモンダサカイニ／ナモンダノッテ／ダモンダノッテ／ナモンダデ／ダモンダデ センダクモンナ (ナーン) カワカンナ。

注: 「ナーン」は、この場合「ちっとも」に相当する副詞。

- 1-1-3 (マイニチ) テンキ {ガ／ナ} イー {サカイニ／デ／ガデ／モンデ／モンダサカイ／モンダデ} センダクモンナ ヨー カワク。
- 1-1-4 コノ ヘヤ {ワ／ $\phi$ } シズカ {ダサカイ／ダサカイニ／ダデ／ダカラ／ナモンデ／ダモンデ／?ナモンダサカイ／?ダモンダサカイ} シゴトニ シューチュー {デキル／デキルチャ／デキッチャ}。  
 コノ ヘヤ シズカダノッテ シゴトニ シューチューデキマス。  
 コノ ヘヤワ シズカナガデ シューチューシヤスイチャ。
- 1-1-5 ユーベ オーアメガ フッタ {サカイニ／ノッテ／デ／ガデ} ジメンニ ミズタマリガデキトル。
- 1-1-6 コドモ {ダサカイニ／ダカラ／ナガデ／ナモンデ／ダモンデ} ワカラナンダ。

## 1-2 行為の理由(主節のモダリティ制限の調査を兼ねる)

$\alpha$ 類(サカイ等)は主節のモダリティ制限がないが、 $\beta$ 類(ガデ, モンデ, 「モン断 $\alpha$ 」)は意志や働きかけ表現では許容されにくい。 $\beta$ 類のなかでも、ガデが比較的用いられやすく、「モン断 $\alpha$ 」がもっとも制限が強いという違いがある。また、主節が働きかけ表現の場合、1-2-4より聞き手への待遇価の高い1-2-5で、ガデが許容されやすくなる。高岡市でもほぼ同様の傾向があった。これらの $\beta$ 類の特徴は、共通語の「ので」や「もので」「ものだから」と重なる。

- 1-2-1 タイチョーガ ワルイ {サカイニ／ノッテ／デ／ガデ／モンデ} リョコーニワ イカンガニシタ。

注: 主節は、共通の調査項目と異なり、「旅行には行かないことにした」相当の表現。

- 1-2-2 タイチョーガ ワルイ {サカイ／ノッテ／モンデ／×モンダノッテ} キョーワ シゴト {オ／ $\phi$ } ヤスモー。
- 1-2-3 {ヨミッチャ／ヨミチア} クライ {サカイ／サカイニ／ノッテ／デ／カラ／?ガデ／?モンデ／×モンダノッテ／×モンダデ} イッショニ カエランマイ {カ／ケ}。
- 1-2-4 アカンボー {ガ／ア} ネットル {サカイ／ノッテ／カラ／×ガデ／×モンデ／×モンダサカイ／×モンダノッテ} シズカニセーマ。
- 1-2-5 アカンボー {ガ／ア} ネットル {サカイ／ノッテ／ガデ／モンデ} (チョット／スコシ) シズカニシテヤッテ。  
 アカンボーガ ネットルサカイニ スコシ シズカニシテモラエンケ。  
 アカンボーア ネットル {サカイ／ガデ／?モンデ／?モンダサカイ} シズカニシテクタハレ。
- 1-2-6 アメガ フル {サカイニ／ノッテ／デ／×ガデ／×モンデ} カサ {オ／ $\phi$ } モッテイケ。

## 1-3 判断の根拠

判断の根拠を表す場合、「モン断 $\alpha$ 」は許容されにくい。1-3-1bではモンデも不自然とされるが、文末という統語環境によるのかもしれない。高岡市ではモンヤサカイニのほか、モンデ・ガデも不可とされた。

- 1-3-1a ホシガ デトル {サカイニ／ノッテ／ガデ／モンデ／×モンダサカイ} アシタモ

(イー) テンキダロワイニ。

注: 「テンキダロワイニ」は「天気だろうよ」の意。

1-3-1b A: ホシ {デトツサカイニ/デトツサカライニ/デトルノッテ/デトツカラ/?デトルガデ/?デトルモンデ/?デトルモンダサカイニ/?デトルモンダノッテ/?デトルモンダデ}。

注: A「星が出ている {から/ので}。」部分のみ発話文例を得た。動詞の終止形末尾拍ルは、無声の破裂・破擦・摩擦子音(カ・サ・タ・ハ行)が後続する環境では促音化しうる。サカイニ・サカライニ・カラの前で動詞が「デトツ」となるのはそのためである。(これに該当する動詞の異形態については、以下、注記しない。)

1-3-2 ヒダリテクスリュビニ ユビワ {ハメトツサカイ/ハメトルノッテ} ケッコンシトンガダロー。

注: 主節は「結婚しているのだろう」相当。「結婚している」という言い切りでは発話が得られなかった。

1-3-3 セキガ デルシ ネットポイサカイ コレワ カゼオ ヒートルガニ チガイナイ。

注: 主節述部は「風邪を引いているのに違いない」の意。

1-3-4 サッキ シンブンハイタツノ オト シタ {サカイ/ノッテ/ガデ/モンデ} イマ ゴジ スギタガダロ。

#### 1-4 発言・態度の根拠

1-2で見たとおり、β類には主節のモダリティ制限があり、働きかけ表現では許容されにくい。また、モンデよりはガデが許容されやすい。(「モン断α」は1-2で用いられないことが明らかだったので、確認しなかった。)

1-4-1 アブナイ {サカイニ/ノッテ/カラ/ガデ/?モンデ} コノ カワデ アソブナ。

1-4-2 カゼ ヒクト ダメ {ダサカイ/ダサカイニ/×ナガデ/?ダモンデ} アツギシテイカレ。

1-4-3 キョーノ シゴトワ ミンナ オワッタ {サカイ/×ガデ/×モンデ} モー カエランマイカ。

#### 1-5 理由を表さない用法

理由を表さない用法でもβ類は許容されにくい。β類のなかでガデが比較的許容されやすい点は、1-2, 1-4と同様である。

1-5-1 スグ モドッテクルサカイニ コノヘンデ マットッテクレ。

スグ モドッテクル {ノッテ/デ/カラ/ガデ/×モンデ/×モンダデ} ココデ マットッテ。

1-5-2 イチドデ イー {サカイ/?ガデ} ピラミッドニ ノボッテミタイ。

1-5-3 オネガイ {ダサカイ/?ナガデ} オカネ カシテクダハレ。

1-5-4 クルマ ヨブ {サカイニ/カラ/×ガデ/×モンデ} スグ ビョーインニ イカレ。

1-5-5 ツクエノ ウエニ オイテアル {サカイニ/×ガデ/×モンデ} トッテキテクレンケ。

#### 1-6 原因・理由節の述語用法 (XはYからだ)

原因・理由節の述語用法では、β類は不可。α類ではサカイ(ニ)・カラの例を得たが、1-6-1ではサカイニに対する判断がゆれた。高岡市でもこの項目でサカイニが許容されにくかった。

- 1-6-1 A: ア キブンナ ワルイ。  
B: アンナニ タクサン ノム {? サカイニ / カラ} ダチャ。
- 1-6-2 A: キョーア デパート コンドルネ。  
B: ニチヨービダ サカイ ダロネ。
- 1-6-3 A: サイキン タローノ キゲンガ ワルイガヨ。  
B: オマエガ ジローノコトバツカリ ホメル サカイ ジャナイガカ。
- 1-6-4 A: サイキン タローノ キゲンガ ワルイガヨ。  
B: ワタシガ ジローノ コトバツカリ ホメル サカイ カナー。
- 1-6-5 A: サイキン タローノ キゲンガ ワルイガヨ。  
B: ジローバツカリ ホメラレル { サカイ / カラ } カモシレンネー。
- 1-6-6 A: ヒッコシノアト パソコンノ チョーシガ ワルイガヨ。  
B: ソリヤ ハコブトキニ オトシタ サカイ ダチャ。

## 1-7 従属節内のモダリティ表現

### 1-7-1 伝聞・推定表現など

伝聞・推定のソーナやヨーナ, ラシーに続く場合, モンデは許容されない(1-7-1-1~3は, 主節のモダリティ制限にもよるのだろうが, 主節が叙述表現の1-7-1-4でも不可とされる)。

- 1-7-1-1 (コンヤ) アメガ フルソー {ダサカイ / ダカラ / ナガデ / ×ナモンデ} ハヤメニ {カエロー / カエランマイカ}。

注: 「カエランマイカ」は勧誘表現。以下も同じ。

- 1-7-1-2 テンキヨホーダト コンヤ アメ フラシー {サカイニ / ガデ / ×モンデ} ハヤメニ カエランマイカ。

- 1-7-1-3 アメァ フリソー {ダサカイ / ナガデ / ×ナモンデ} ハヤメニ カエランマイカ。

- 1-7-1-4 (ドーモ) ネットガ アルヨー {ダサカイ / ナガデ / ×ナモンデ} ハヤメニ カエルコトニシタ。

ネットァ アルガンミタイ {サカイ / ノッテ / デ / ナガデ / ナモンデ} ハヤク カエルガニシタ。

注: ヨーダ・ヨーナよりもミタイ(ナ)のほうが方言的だという。その前のガンは準体助詞。サカイ, ノッテ, デがミタイに続く形で得られたのは, ミタイがイ形容詞化しつつあることを示すか。ミタイにガデ, モンデが続くかは未確認。

- 1-7-1-5 アメガ フルカモシレン {サカイ / サカイニ / ノッテ / ガデ / モンデ / モンダサカイ} カサ モッテキタ。

### 1-7-2 推量表現

推量表現には接続しにくい。カラは, 従来の動詞推量形フローでは不可だが, 新形フルダローで可とされ, サカイも, 後者のほうが許容されやすくなる。高岡市でも「雨がやむだろうから」相当の場合, ヤムヤローサカライニは不可, ヤムヤローカラは可とされた。

- 1-7-2-1 アメガ フルダロー {? サカイ / ×ノッテ / カラ} カサ モッテケマ。

アメガ フロー {×サカイ / ×ノッテ / ×デ / ×カラ} カサ モッテケマ。

- 1-7-2-2 カナリ ユキガ フッターロー {×サカイ / ×カラ} ナダレガ シンパイダ。

- 1-7-2-5 ×コノブンダト アシタモ アメダロー サカイ エンソクワ チューシニ ナローワイ。

### 1-7-3 丁寧表現

丁寧のマス・デスにもサカイやガデが付きうる。モンデが不自然とされたのは、主節のモダリティ制限のためか。

1-7-3-1 チョット ハナシ アリマス {サカイ/ガデ/?モンデ} ココエ キテッタハレ。

1-7-3-2 キケンデスサカイ カケコミジョーシャワ ヤメマショー。

### 1-8 文末用法

#### 1-8-1 倒置

β類は許容されにくい。主節のモダリティ制限によると思われる。

1-8-1-1 ココデ チョット マットッテ。スグ(ニ) モドッテ クル {サカイ/サカイニ/ノッテ/カラ/?ガデ/×モンデ}。

1-8-1-2 チョット ゴセンエン カシテ。ゲツマツマデニ カエス {サカイニ/ノッテ/デ/?ガデ/×モンデ}。

1-8-1-3 エキマデ ムカエニ キテ。シチジマデニ ツク {サカイニ/ノッテ/カラ}。

#### 1-8-2 終助詞的用法

サカイは、文の最末尾で用いられるだけでなく、終助詞「ネ」「ナー」が後接しうる。β類は許容されにくい。

1-8-2-1 アトデ {モー イッカイ/マタ} デンワスル {サカイ/ノッテ/?ガデ/×モンデ}。

1-8-2-2 チョット デカケテ クッチャ。プリンナ レーゾーコニ ハイットル {サカイ/カラ} ネ。

1-8-2-3 キミノ コトー モートー ワスレンサカイネ。

注:「モートー」は「決して」相当の副詞。

1-8-2-4 オトーサンニ イーツケテヤッサカイナー。

## 2 「のだから」の用法

「のだから」に相当する形式として、準体助詞ガを用いたガダサカイ・ガダデ・ガダカラが得られた(ガダノッテや、準体助詞ガンを用いたガンダサカイ等も可能だと思われるが、未確認)。ガが共通語的なンに代わった、ンダサカイ・ンダカラもあった。これらの形式の用法は、共通語の「のだから」と同様である。

### 2-1 「から(ので)」との相違

2-1-1a ジカンガ ナイサカイ {イソイダ/イソガンマイケ/イソゲマ}。

b ×ジカンガ ナイガダサカイ イソイダ。

ジカンガ ナイ {ガダサカイ/ガダデ/ガダカラ} イソガンマイケ。

ジカンガ ナイガダサカイ イソゲマ。

注:「イソガンマイケ」は「急ごうじゃないか」相当の勧誘表現。

### 2-2 意味・用法(接続調査を兼ねる)

#### 2-2-1 確かな事実とその当然の結論

2-2-1-2ではサカイも許容された(共通語でも「から」が許容しやすいか)。

2-2-1-1 コンナニ ガンバツタ {?サカイ/ガダサカイ} コンダ ウマク イクハズダチャ。

注：ただし、「コンナニ ガンバツタガダモン。コンダ ウマク イクハズダチャ。」のほうが自然だという。

2-2-1-2 ダイジナ ハナシ シトル {サカイ/ガダサカイ} コドモタチャ アッチ イットラレ。

2-2-1-3 コッチワ シンケン {×ダサカイ/ナダサカイ/ナダカラ} カラカワントイテヨ。

## 2-2-2 聞き手に関する情報—行動要求・認識要求

2-2-2-1 ワカイ {×サカイ/ンダサカイ} イチドヤ ニドノ シツパイデ クヨクヨスルナ。

2-2-2-2 ジュケンセー {×ダサカイ/ナガダサカイ/ナガダデ} モット シンケンニ ベンキョーシラレ。

2-2-2-3 セツカク リューガク スル {×サカイ/ガダサカイ} チャント ベンキョーシテコイヤ。

## 2-2-3 後件が聞き手の利益になる事柄の場合

2-2-3-1 ジカンワ マダ ジューブン アルガダサカイ ユックリシテイカレ。

## 2-2-4 倒置

2-2-4-1 カラダニ キー ツケレヤ。モー ワカク ナイ {ガダサカイ/ガダカラ}。

## 2-2-5 終助詞的用法

2-2-5-1 ワタシ ゼツタイニ アノ ヒトト ケッコンスルガダサカイ。

## 3 接続詞「だから」の用法

原因・理由の接続詞としては、ンダデ・ソダサカイ・ダサカイ・ソヤサカイ・ダカラなど「ソ系指示詞+断定辞+α類」または「断定辞+α類」が得られた（「ンダデ」の「ン」はソ系指示詞が磨耗したものとみなす）。話者に語形に対する意識を問うと、ソヤサカイが「富山弁として自然」とされるが、調査項目に対する第一答ではソヤサカイよりもンダデのほうが、また、それらよりもダカラのほうが出現しやすい（特に3-2-2以降の項目ではダカラが顕著に用いられやすくなる）。ノツテを含む形式は得られなかった。また、β類のガデ・モンデを含むソーナガデ・ソヤモンデなどを提示して確認してみたが、用いないとされた。

### 3-1 接続助詞「から」の文に言い換えられ、2文が同一の話手によるもの

3-1-1 チカゴロァ マイニチ アメ フツチャ。{ンダデ/ソダサカイ/ソダカラ} センダクモンナ ナーン カワカンチャ。

サイキンワ マイニチ ヨー アメガ フル。ソヤサカイ ナーン センダクモンナ カワカンガダチャ。

3-1-3 スグ モドツテクツチャ。ソヤサカイ ココデ マットツテクレ。

注：ダカラ・ンダデは未確認。

### 3-2 接続助詞「から」の文に言い換えられ、2文の間に話者交替があるもの

### 3-2-1 相手の発話中の事態Pを受け、それから導かれる帰結Qを述べるもの

3-2-1-1 A : サイキン マイニチ アメ フルノー。

B : ウン。{ンダデ/ソダサカイ/ソヤサカイ} センダクモンナ (ナーン) カ  
ワカンデ コマッチャ。

### 3-2-2 聞き手に結論を求めるもの

接続詞一語文のB3ではダカラのみ可とされる。B1・B2でもソヤサカイ、ンダデも可だが、ダカラのほうが出現しやすい。

3-2-2-1 A : タイヘンダ。アメァ フッテキタ。

B1 : {ンダデ/ダサカイ/ソヤサカイ/ダカラ} ドーシタ ユーガイニ。

B2 : {ンダデ/ダサカイ/ソヤサカイ/ダカラ} ナンナガ (ケ)。

B3 : {×ンダデ/×ダサカイ/×ソヤサカイ/ダカラ} ?

### 3-2-3 相手の発話中の事態や発話時の状況Pが、既知の事態Qの原因・理由であると認定するもの

この場合もダカラが現れやすい。

3-2-3-1 A 「ジコデ デンシャ オクレトルソーダヨ。」

B 「ソーカ。{ンダデ/ソヤサカイ/ダカラ} ミンナ マダ コンガダ。」

3-2-3-2 {ンダデ/ソヤサカイ/ダカラ} レンキューニ デカケルガ イヤナガダ (チャ)。

3-2-3-3 {ダデ/ソヤサカイ/ダカラ} レンキューニ デカケルガ イヤナガダチャ。

### 3-2-4 相手の発話中の事態や発話時の状況Pが、既に行った発話行為Qの理由であると認定するもの

この場合もダカラが現れやすい。

3-2-4-1a {ンダデ/ダサカイ} ヤメトケ ユータガダ。

ダカラ ヤメテオケト ユータガダ。

b {ンダデ/ダカラ} ヤメトケ (ト) ユータダロー。

c {ンダデ/ダサカイ/ダカラ} ヤメトケ ユータニカ。

### 3-3 接続助詞「から」の文に言い換えられず、「あなたもわかっているはずなのに」という話し手の態度を表すもの

3-3-1 「あなたが…と言うから私は～と言う」という発話行為間の因果関係があるもの

この場合もダカラが現れやすい。また「と言っているじゃないか」を伴うB1のほうが、それがないB2よりも言いやすいという。

3-3-1-1 A : サッキ タノンダ シゴト チャント ヤッテネ。

B : ウン。キョージュニ ヤルヨ。イマ チョット イソガシテ デキング。

A : アシタマデニ ヤッテヨ。

B1 : {ンダデ/ダサカイ/ソヤサカイ/ダカラ} キョージュニ ヤル ユートン  
ニカ。

B2 : {ンダデ/ダサカイ/ソヤサカイ/ダカラ} キョージュニ ヤルヨ。

3-3-1-2 B2 : {ンダデ/ソヤサカイ/ダカラ} ナニセ ハナシテミラレヨ。

注 : 対話の最後の文「だから、話してみなさい。」のみ発話を得た。「ナニセ」は「なににせよ」「と

もかく」の意。

### 3-3-2 発話行為間の因果関係がないもの

この場合もダカラが現れやすい。

3-3-2-1 A : サッキ タノンダ シゴト ヤツテクレタ？

B : エ？ ナンノコト？

A : {ンダデ/ダサカイ/ソヤサカイ/ダカラ} ゴゼンチューニ タノンダ アノ シ  
ゴト (ノコト) ダ {チャ/ヨ}。

3-3-2-2 B 2 : {ンダデ/ソヤサカイ/ダカラ} キノー ハナシトッタ タナカサンダゼ。

注 : 対話の最後の文「だから、昨日話していた3丁目の田中さん。」のみ発話を得た。